

## 研究課題名

透析患者における CT で測定したサルコペニア指数と筋力との関係について

## 研究責任者の氏名

矢島隆宏

## 共同研究者の氏名

荒尾舞子

## 研究の概要

目的: 透析患者さんにおいては、筋肉量の減少とともに筋肉の質の低下(筋力)が生命予後に悪影響を及ぼすことが知られています。我々は、先の研究において腹部単純 CT で得られたサルコペニア指数[第3腰椎のスライスで腹回りの骨格筋、腸腰筋、傍脊柱筋の面積を身長<sup>2</sup>で割ったものそれぞれ abdominal skeletal muscle index (ASMI)、psoas muscle index (PMI)、paraspinous muscle index (PSMI)]と生体インピーダンス法による SMMI との関連について検証しました。一方で、筋肉の質の指標として、CT による第3腰椎のスライスで腹回りの骨格筋、腸腰筋、傍脊柱筋の平均 CT 値である abdominal skeletal muscle density (ASMD)、psoas muscle density (PMD)、paraspinous muscle density (PSMD)が知られています。今回、透析患者さんにおいて ASMD、PMD、PSMD と筋力との関連を評価することを目的とします。

対象と方法: 2019年4月から2021年3月の間に、当院外来での維持透析患者さんのうち、年1回の定期検査において、癌のスクリーニング検査の一環として腹部単純 CT および栄養評価の一環として握力を評価した患者さん約120例を対象とします。カルテから、身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査、CT、握力などのデータを収集します。既報をもとに CT による第3腰椎のスライスで腹回りの骨格筋、腸腰筋、傍脊柱筋の平均 CT 値をそれぞれ、ASMD、PMD、PSMD と定義します。まず、ASMD、PMD、PSMD と握力との相関を評価します。さらに、アジアのサルコペニアのガイドラインによる筋力低下を握力により女性 <18kg、男性 <26kg と定義した時の ASMD、PMD、PSMD の筋肉量低下の診断能を評価します。

研究に関する記録は、研究終了後5年間保存した後に消去します。なお、研究の成果に関しては、学会発表や論文投稿する予定です。住所、氏名などの個人情報公開されることは一切ありません。

## 利用する情報の項目

身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、CT 所見、握力などのデータ

## 利用するものの範囲

医師： 矢島隆宏、荒尾舞子

連絡先

松波総合病院 腎臓内科 矢島隆宏

TEL: 058-388-0111

FAX: 058-388-4711